



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

TOPICS ● トピックス

親子ふれあい 医療フェスティバル



KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

祇園祭(氷見市)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 親子ふれあい医療フェスティバル	P.01
眞柴先生の診察室から	P.03
特集 化学療法について	P.04
診療コラム	P.04
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



第8回
夏休み
親子ふれあい
医療フェスティバル

2019年8月4日(日)当院に於いて「第8回夏休み親子ふれあい医療フェスティバル」元気なからだをつくろう」を開催しました。このフェスティバルは平成24年からスタートし、小学生及びその保護者を対象に、人間の体のしくみや機能を通じて医療に興味を持ってもらうことを目的に毎年開催しており、今年で8回目となります。氷見市をはじめ高岡市、射水市、富山市などから小中学生70名、保護者45名の計115名が参加しました。



「普段皆さんは病院へは病気やけがをした時に来ますが、今日は医師や看護師、検査技師、理学療法士、作業療法士、事務員など様々な職種の病院スタッフになりきり、いろいろな体験してください。」と挨拶がありました。

「普段皆さんは病院へは病気やけがをした時に来ますが、今日は医師や看護師、検査技師、理学療法士、作業療法士、事務員など様々な職種の病院スタッフになりきり、いろいろな体験してください。」と挨拶がありました。



腎臓内科 齋藤 淳史 教授から「理科の実験って大切ななの？」腎臓のはたらきと理科の実験で考える透析治療」と題し、理科の実験に倣って腎臓のはたらきや、透析治療について講演されました。腎臓のはたらきは老廃物を尿として排泄(血液浄化)、水分やミネラル分の調節、ホルモン分泌(血圧調節・血液を作る・骨を丈夫にする)などがあることが説明されました。また、腎臓が働かなくなってしまうと透析治療を行う必要があることが説明され、透析治療については学校での理科の実験を参考に拡散やる過程の説明をされました。



思い出して取り組まなければならない」とお話しされました。

講演

理科の実験って大切ななの？

「腎臓のはたらきと理科の実験で考える透析治療」

腎臓内科 臨床教授 齋藤 淳史

医療体験コース

①手術室見学コース

普段なかなか入る事のできない手術室の厳肅な雰囲気の中で、医師と一緒に、実際に



電気メスを使って人の体に見立てた鶏肉に切れ目を入れたり縫合したりと、手術の執刀体験をしました。

また、手術用ベッドに横たわり、モニターに映る自分の心電図の波形を観察したりなど、患者さんの気持ちを体験してもらいました。

②放射線3D画像体験コース

放射線とは何か、血管やお腹の画像がどのように診療に使われているかについて説明を受けた後、放射線技師と一緒に、人体の代わりに野菜や果物などのCT画像を用いて、断面がどのように映るのかを確認したり、コンピュータで画像を切り取ったり色を付けたりする画像処



理を体験しました。また、マンモグラフィ装置に触れ、胸の模型や画像から病気を見つける画像診断の技術を学びました。

③中央臨床検査部見学コース

血液とはどのようなものかについて学んだあと、なぜ血液が遠心分離機で分離するのか、酵素やホルモンの量を調べることでの状態を調べている事などを学びました。また、検尿に含まれる細菌や血液の様子を顕微鏡で観察しました。



④看護体験コース

看護師の制服に着替えて、聴診器を使って、親子で互いに心臓の音や水を飲んだ時ののどを通る音を聞き合ったり、看したり、看護師の指導により正しい手洗い方法を学んだりしました。



また、タッチセラピー体験として、子供たちからお父さんお母さんへ、日頃の感謝を込めてハンドマッサージをおこなうなど、笑顔が絶えない和やかな雰囲気の中で、体験を楽しんでいました。

⑤腹腔鏡・内視鏡体験コース

専門医師の指導のもと、腹腔鏡を操作して模型内の悪性部位に見立てた飴やチョコレートを取り除く体験や、胃力メラなどで使う内視鏡スコープを胃や腸の模型に挿入し、内視鏡の操作や体内の見え方を体験しました。普段扱うことのできない本物の内視鏡カメラを手にし、皆さん興味津々の様子で体験を楽しんでいました。



また、リハビリ体験として、ギプスで足を固定した状態で、松葉杖を使って

⑥ギプス・リハビリ体験コース

お父さん、お母さんと一緒にギプスを巻く体験や、整形外科医師の指導のもとでギプスカットの体験をしました。

また、リハビリ体験として、ギプスで足を固定した状態で、松葉杖を使って

スロープや段差を乗り越え、ボールを的に当てるコースを歩いても、らうなど、整形外科やリハビリの仕事を患者さんの視点から体験してもらいました。



⑦くすり調剤体験コース

本物の薬剤の代わりに、チョコレートやラムネなどのお菓子を錠剤や散剤に見立てて、処方内容に合わせて機械を使って分包したり、塗り薬の調剤体験として、ビタミン液を用いて軟膏を混ぜ合わせカラフルな塗り薬を作るなど、薬剤師の仕事を体験してもらいました。また、処方せんの内容と氏名や分量が間違っていないかを確認する作業など、調剤以外にも薬剤師の仕事に大切なことを教わっていました。



眞柴先生の
診察室から

救急科 准教授

眞柴
SATORU
MASHIBA
智

平

成31年4月1日付けで救急科に着任させていただきました。今後とも宜しくお願いいたします。自分は救急医療と災害医療も行っていることから、今回は津波災害についてミ



二知識をお話させていただきます。ちょうどこの原稿依頼をいただいた時に、令和1年6月18日午後10時22分山形県沖を震源とする震度6強の地震が発生、幸いにも富山県内には津波警報の発令はありませんでした。富山県と比べ震源地から遠方の石川県能登半島に1mの津波警報が発令されました。断層の方向から富山県内は津波が押し寄せ、可能性は低いと判定されました。結果は大きな津波は発生しませんでした。このとき予測された1mの津波、なかなかイメージがつかみませんし、1mの波なら…というイメージがもたれませんが、津波は1mであっても破壊力が強いと認識が必要です。ここで、1メートルの津波は一命盗る(いちめいとる)のつ

なみはいちめいとる)一人の命を亡くすと覚えてください。津波警報が発令された時、早く高くて頑丈なところに避難することが必要であると認識してください。まず、自分の身の安全を確保してください。



眞柴 智 ★ 略歴



【略歴】

- ◎ 1993年3月 金沢医科大学医学部医学科卒業
- ◎ 1993年5月 金沢医科大学病院救命救急科入局
- ◎ 1997年4月 金沢医科大学病院救命救急科助手
- ◎ 2002年1月 日本救急医学会救急科認定医
- ◎ 2006年4月 金沢医科大学救急医学講師
- ◎ 2006年7月 厚生労働省日本 DMAT 隊員
- ◎ 2007年1月 日本救急医学会救急科専門医
- ◎ 2017年4月 社会医学系専門医協会指導医、専門医
- ◎ 2018年4月 厚生労働省日本 DMAT インストラクター
- ◎ 2019年4月 金沢医科大学氷見市民病院救急科科長

【所属学会】

- ◎ 日本救急医学会
- ◎ 日本臨床救急医学会
- ◎ 日本災害医学会
- ◎ 日本熱傷学会
- ◎ 日本航空医療学会

化学療法について

化学療法とは、薬を用いて微生物やがん細胞の増殖を阻害し、体内から駆逐する治療法を指します。今日では、抗がん剤を用いた「がん化学療法」のことを指す場合が多いです。

かつて、「抗がん剤は効かない」「抗がん剤治療は苦しい」などの言説がマスコミを賑わせました。確かにそんな時代もありましたが、今ではまったく状況が違います。

抗がん剤は進歩し、とても効

果が得られるようになりました。苦痛を和らげる方法(支持療法)も進歩し、前世紀とは隔世の感があります。化学療法は今日のがん治療には不可欠な治療法です。

当院でも、化学療法室・化学療法委員会を中心に、安全かつ確実な化学療法を患者さんに提供しています。



診療コラム

「患者相談支援窓口」開設

地域医療連携部では6月から「患者相談支援窓口」を開設いたしました。

この窓口は、患者さんやご家族の方々からの在宅での生活や入院上の不安や、医療、介護に関することなどさまざまな相談を看護師、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士などのスタッフが連携しながらお話を伺いますので、お気軽にお越しください。

【窓口での内容】

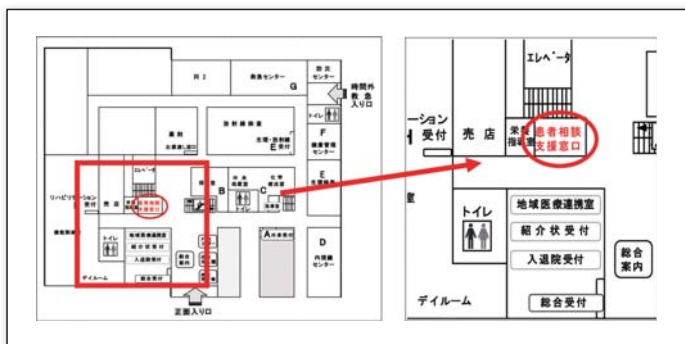
- ・医療福祉に関する相談
(退院支援、医療、福祉、介護、療養、就業両立支援、セカンドオピニオンなど)
- ・がんに関する相談
- ・診療費等に関する相談(支払い、交通事故、労働災害など)
- ・医療安全に関する相談(診療情報開示、個人情報保護、感染対策など)
- ・お薬に関する相談
- ・栄養、食事に関する相談
- ・その他、病気に関する医学的な質問や、生活上の問題、入院上の不安など様々な相談

【相談時間】

月～金 8時45分から17時
土 8時45分から12時45分

【場所】

病院1階
エスカレーター向かい



社会に学ぶ「14歳の挑戦」

この「14歳の挑戦」は、県内の中学2年生を対象とした職業体験学習で、平成11年の事業開始以来、当院でも毎年受け入れを行なっています。

今年も7月1日から5日間、南部中学校、西條中学校より計6名が参加し、へき地巡回診療への同行、各診療部門の見学、実際の医療機器を用いた操作体験など、各部門のスタッフが工夫を凝らしたプログラムで学生を迎え入れました。

参加した学生さんは皆、将来医療職に就くことを目標に持っており、初めて立ち入る医療現場の緊張感を肌で感じながら、真剣に取り組む様子が見られました。

病院ではさまざまな職種が患者さんのためにチームとなって働いていること、日々進歩する医療に対し、スタッフが常に知識更新に努めていることなど、実際の現場を目の当たりにし、新たな発見や学びがあったようで、毎日の活動日誌を通じて、皆思い思いの感想を寄せてくれました。

この5日間の体験が、将来の夢や目標に向かって進む上で、何かしら有益に繋がれば幸いに思います。未来への可能性に満ちた皆さんの今後の飛躍を、職員一同祈念しております。



2019年度 健康づくり教室

2019年度の健康づくり教室が開講されました。地域の皆さんの健康増進に役立てていただく事を目的に、2013年度よりスタートし、今年で7回目となります。

毎年好評をいただき、今年も毎回200名を超える大変多くの方に受講していただいています。今号では、全6回のうち、開催を終了した3回の講演についてご紹介いたします。

【第1回・開講式】 5月18日(土)

演 題 「誤嚥性肺炎の予防について」

講 師 病院長・呼吸器内科 教授 梅博久

参加者数 215名

講演前に開講式を実施し、梅病院長の開会挨拶により今年度の健康づくり教室がスタートしました。

第1回目のテーマは「誤嚥性肺炎」。誤嚥性肺炎を招く嚥下障害は「頭の病気」であるとし、脳血管疾患と強く関連している事など、その仕組みや原因について解説され、その中で日常生活における予防策として、口腔ケアの重要性等についてアドバイスがありました。近年、日本人の死因の上位とされる身近な病気として関心が高まっており、講演後には多数の質問が挙がりました。



【第2回】 6月15日(土)

演 題 「生活習慣病〜自分の体は自分で守る〜」

講 師 総合診療科 助教 薄田 大輔

参加者数 227名

第2回は、「生活習慣病」をテーマに、身近な話題を取り入れながら、日常生活におけるアドバイスや、禁煙の成功法等について、医師の視点から分かり易く解説されました。

「遺伝だから仕方ない」と諦めがちな疾患も、実際は遺伝ではなく、原因の多くは自身の生活習慣の中にあるとの話を受け、「自分の体は自分で守る」その意味を今一度実感する講演となりました。

今回の講演を振り返り、日頃の生活習慣を見直し、改善を図る機会として活用していただければと思います。



【第3回】 7月20日(土)

演 題 「手・ゆびの変形、痛みあきらめていませんか？」

講 師 整形外科 臨床教授 横山光輝

参加者数 235名

第3回は、手指関節の疾患をテーマに講演が行われました。

講師の横山教授は、北陸では希少な手・上肢疾患の専門医として、日頃から手関節の疾患も含め、幅広く診療にあたっています。今回の講演では、手指の変形や痛みについて、症状別に疾患が紹介され、症状に応じた段階的な治療法について、実際の治療器具を用いながら、分かり易く解説されました。手指の症状に悩んでいる方にとって、治療に踏み出す一助となれば幸いです。



夏祭り・BBQ大会

日時 令和元年7月14日(日) 10時30分
場所 島尾キャンプ場

病院職員・職員家族親睦事業の互助会行事として「夏祭り・BBQ大会」が職員・家族合わせ100名が参加し島尾キャンプ場で開催されました。

はじめに松本忠美CEOから開会の挨拶があり、バーベキューが開始されました。賑やかな雰囲気の中、子供たちのスイカ割り大会、引き続き全員参加のビンゴゲーム大会が行われ、ビンゴの度に大いに盛り上がり、楽しいひと時が過ごされました。

最後に、上端雅則事務部長の閉会の挨拶で終了し、全員で後片付けを行った後、解散となりました。

今年はこちらまでよりも子供たちの参加者が多く、夏の良い思い出となりました。



病院からのお知らせ掲示板

● 授乳室の利用案内について

令和元年5月20日(月)から、患者相談支援窓口、患者相談支援室の開設に伴い、1階授乳室が廃止となりました。ご利用される方につきましては、お手数ですが、2階産婦人科外来内の授乳室をご利用下さい。



● 第7回 腎不全患者家族研修会

「利用可能時間」
 月～金 8時45分～17時
 土 8時45分～12時
 ※病院休診日は利用不可

◇目的

腎不全患者さんおよびご家族のQOL向上を図るため、疾患への理解を深め、自己管理のスキルアップやご家族による在宅ケアのサポートの支援を目的に、透析スタッフが指導を行います。

◇テーマ

「令和の時代 自分の目標に向かって進もう」
 気になっている事や心配事の相談、今後のやりたい事など目標を持つことで治療の継続に繋げる。

◇概要

日時 令和元年11月10日(日) 9時～11時30分
会場 金沢医科大学氷見市民病院 6階多目的ホール
対象者 氷見市内に通院中の透析患者さんおよびご家族の方・透析導入前の保存期の患者さんおよびご家族の方

◇内容

腎臓内科医師や緩和ケア認定看護師による講義
 透析治療食の試食
 管理栄養士による栄養指導 など
 ※詳細については、左記までお問合せください。
◇申込・問合せ
 血液浄化センター(内線2200)

● 第11回 広げようブルーサークルのエッセンス健康講座

◇目的

11月14日の世界糖尿病デーにちなみ、講演や食事バランス・健康チェックを通じて、生活習慣を見直し、発病及び進展の予防の大切さを市民にわかりやすく啓蒙する。また、疾病に対する地域における理解を深める。

◇概要

日時 令和元年11月2日(土) 13時～16時
会場 金沢医科大学氷見市民病院 6階多目的ホール・ラウンジ
対象者 糖尿病に関心のある方 (どなたでも参加できます)
内容 座長 河合内科医院 河合盛光先生
 ①「氷見市の糖尿病予防の取り組み」
 氷見市健康課
 ②「リハビリテーション部による講義・実技」
 「運動のすすめ」～良質な筋肉を目指して～
 ③「栄養部による糖尿病ワンポイントクイズ」
 ④「特別講演」
 「糖尿病一般について」～高齢者に対する糖尿病～
 金沢医科大学氷見市民病院 内分泌・代謝科教授 伊藤智彦

◇同時開催

13時～14時
 食事バランスチェックコーナー(管理栄養士)
 血糖値・血圧測定コーナー(看護師)
◇問合せ 医事課(内線1022)

● ヘルシーッキング教室

日時 令和元年10月19日(土) 10時～13時
会場 JA創作工房ひみ
講演 「糖尿病に配慮した間食について(おやつ・軽食)」
 金沢医科大学氷見市民病院 内分泌・代謝科 高木晋先生
調理実習 腸内フローラを整える「快腸フンプレートランチ」
 「持ち物」エプロン・三角巾(ハンダナ等)・タオル
注意事項 「参加費」無料 「参加定員」15名
申込・問合せ アレルギーのある方は、お申出ください。
 医事課(内線1022)

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報 は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

氷見のブルーベリー

1999年に氷見市触坂で開業された「ブルーベリーと山の幸いなかふれさか」。2001年より摘み取り農園を開園され、30種類約1000本の成木が育っています。種類によって味も異なるので是非食べ比べてみてはいかがでしょうか？

また、「café 風楽里」ではブルーベリーの食べ方を広く知っていただくために直売所兼喫茶店として営業しており、農園のブルーベリーをつかった様々な食事やデザートが楽しめる他、ジャム作り体験もできます。夜は予約制のバル「BAR 宵中ふれさか」として、昼とは違いお酒にあったお食事も豊富に取り揃えています。“宵の時間のひととき”をふれさかでのんびりゆったり過ごしてみてもいかがでしょうか？

是非、ご家族やご友人とお出かけ下さい。

- 詳しい情報、お問い合わせは、ホームページをご覧ください。
<https://furari.0am.jp/>



表紙について

今年7月13、14日に行われた、氷見の大祭「祇園祭り」の様子です。

この祭は、およそ300年前に町一帯を襲った悪病の退散祈願のため、京都八坂神社から祇園神の分霊を迎え祈願した事が由来で、平癒に感謝して神輿を巡行したことが始まりとされています。優雅な曳山は、夕暮れとともに灯をともし提灯山に姿を変え、いっそう風情を増します。「イヤサー、イヤサー」の威勢のいい掛け声と、笛や力強い太鼓の音色が街に響き、氷見の夏の訪れを告げる祭りとして市民に親しまれています。

編集後記

最近、早朝6時20分頃になると、町内のあちらこちらから眠い目をこすりながら子供たちが現れてきます。夏休みの風物詩、ラジオ体操です。

自分自身の50年前を思い出し、微笑ましく感じながら、昔から変わらぬこの平穏な光景が、50年後も100年後も続くよう願っています。

かけし夏号編集委員 総務課 坂田 慎一

■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。